

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	64	学校名	静岡県立袋井商業高等学校	校長名	花崎 昌史
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	商業の学びと実践との融合、「学びのサイクル」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことが袋商ショップで役に立ったと感じる生徒 85%以上 ・袋商ショップを経験することにより学びたい気持ちが高まった生徒 75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことが袋商ショップで役に立ったととても感じた生徒 85.8% ・袋商ショップの経験で学びたい気持ちが高まった生徒 79.1% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較し、達成状況は6%上昇した。ビジネス基礎やマーケティングの授業において、外部講師を招き専門的な授業を行うことができたことが要因と考えられる。 ・昨年度と比較して達成状況は、8.7%上昇した。キャッシュレス決済の全店舗導入や、今年から運営方法を変更したことが、良い方向に働いたと考えられる。
	袋商ショップの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・R7袋商ショップの開催形態、会場、日の検討と決定 ・キャッシュレス決済の本格導入 	金土開催：66.7% 土日開催：26.7% <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレスについては導入済み。アンケート結果から来年度も実施するべきである。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全店舗キャッシュレス決済、レジアプリの導入を実施し、業務時間の短縮について一定の成果を得た。来年度以降の開催日については駐車場の兼ね合いもあり、今後慎重に検討をする必要がある。
	接客技術、ビジネスマナー教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・接客技術やビジネスマナーの習得に役立ったと感じる生徒 90%以上 ・進路意識の向上につながったと考える生徒 70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしの心研修における接客技術やビジネスマナーの習得に役立ったと感じる生徒 100%（1年）99.2%（2年） ・進路意識の向上につながったと考える生徒 92.0% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ディズニーアカデミーの研修を受けたことで、職種に関係なく必要とされる振る舞いについて気付くことができ、袋商ショップで、高いレベルでの自主性や協調性が見られた。役割分担や販売活動を通して職業観が育まれ、進路意識の向上につながったと思われる。 ・事前学習を充実させることで、研修の目的を明確にした状態でディズニーアカデミー講習やパーク体験に臨むことができた。ショップへ生かすための事後学習も実践できた。

様式第3号

	商業検定合格者・資格取得者の増加 (中上位層の学力伸長)	(1年)簿記検定3級、情報処理検定3級合格率90%以上 (2年)簿記検定2級合格率55%以上 (3年)卒業までに検定1級を取得する生徒30%以上	(1年)簿記検定3級合格率95%、情報処理検定3級合格率100% (2年)簿記検定2級合格率55.7% (3年)卒業までに検定1級を取得する生徒14.9%(134名中20名)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は情報処理検定3級合格者、簿記検定3級合格者ともに目標を達成することができた。 ・2年生は全商簿記2級合格者の目標を達成することができた。 ・3年生の検定1級取得者は14.8%と目標を大きく下回ってしまった。1年生のときから、上級検定試験取得を意識した指導が必要にある。
イ	生徒の能力を引き出す授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・板書や教材等、授業のUD化を実践する教員90%以上 ・教育活動でクロムブックを活用している教員90%以上。 ・授業で対話型・探究型活動を取り入れている教員90%以上 ・授業に満足している生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のUD化を実践した教員90.7% ・教育活動でクロムブックを活用した教員93.8% ・授業で対話型・探究型活動を取り入れた教員84.4% ・授業に満足している生徒83.6% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「板書、プリント等、授業のUD化を実践」が昨年度の80.0%から93.8%に上昇し、目標を達成。 ・授業以外の教育活動にクロムブックを活用する状況が一般化してきている。 ・「授業に満足している」生徒が昨年度76.1%から83.6%と大幅に向上。授業改善が実を結んでいる。
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して基礎力診断結果に向上が見られる 	<p>基礎力診断テスト GTZ 上昇人数 213人 (383人中)、全校0.83上昇。</p> <p>1年：△0.88 2年：△1.87 3年：▼0.23</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期始めのHR面談時に並行して行う学習や基礎力診断テスト実施後の分析により授業改善の成果が出ている。また、各学年のD3生徒の多くが解消している。 ・下位生徒に対する、放課後補習を行った成果が表れた。担任から学習する意味を伝えることにより、意識が高まっており、ボトムアップを図ることができた。今後は進路実現に向け、学習意識を継続させたい。
	観点別評価の実践と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法・指導方法について検討した教員100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法、指導方法について検討した教員93.8% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の完成年度になり、評価基準に沿った評価が行われている。それにともない、評価基準や評価材料が定まり、評価方法についての検討が100%に届かなかったとみられる。

様式第3号

	読書活動の推進	・年間で4冊以上の読書をした生徒75%以上	・年間4冊以上読書をした生徒(11月)23.9%、年度末には達成見込み82.4%	B	・昨年度並みの達成率である。朝読書の時間以外にも読書に取り組むなど、読書を楽しむ前向きな姿勢も見られている。
ウ	基本的な生活習慣の確立	・欠席年間6回以上の生徒10%以下 ・朝食摂取率90%以上	・欠席6回以上10.9% 1年12.7% 2年9.1%、 3年11.0% ※2学期末現在 ・朝食摂取率96.3%	B	・欠席年間6回以上の生徒が11%で目標に若干届かなかった。また、コロナ禍を経て休むことに抵抗感がない生徒が増加しており、皆勤者数が大幅に減少している。
	ビジネスマナー(BM)指導の徹底と改善	・規範意識・ビジネスマナーの育成を意識した指導を行っている教員100% ・校則、指導基準の見直しを昨年度に引き続き実施	・規範意識、ビジネスマナーの育成を意識した指導を行った教員93.8% ・大きな変更はなかったが、継続的な見直しを実施した。	B	・袋商ショップや進路決定を意識して的確な行動がとれた。校内外で自覚とプライドを持った生活が概ねできている。 ・学校全体で校則の見直しが進む一方で、まだまだ本校の校則、指導基準を厳しいと感じる生徒・保護者(アンケート結果)が増加傾向にあるため、次年度以降も継続して校則や指導基準の見直しを行う。
	創造力と協働力の育成	・春風プロジェクトを受講した生徒の満足度80%以上	・受講した生徒54名の満足度は100%	A	・本年度は、ジュビロ磐田、菓蔵SUZUKI、2961COFFEEの協力をいただき、新商品やサービスの開発を行った。11/30にはジュビロ磐田ホームゲームにて、生徒が提案したメロンカップケーキ70個を完売することができた。 ・来年度の業者の選定や、グループごとの授業の進め方について、課題が残った。
エ	希望する進路の実現	・卒業時に進路決定している生徒100% ・進路指導が適切にされていると考える生徒80%以上	・進路決定100% ・進路指導が適切に行われていると考える生徒87.7%	A	・こまめな情報共有を行い、全職員の協力を得ながら、生徒の進路希望に応じた個別指導を適切に行うことができた。 ・「Handy進路指導室」を効率よく利用し、業務やコピー使用量の削減など、さらに改善したい。

様式第3号

	多様な生徒の支援及び特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・3分間カウンセリング実施率95%以上 ・SC相談利用促進を推進し相談件数年間20件以上 ・ケース会議の積極的な開催 ・通級指導の定期的実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・3分間カウンセリング94% ・相談件数13件(面談日20回中) ・不意登校生徒に対するオンライン授業について会議を持った ・通級指導は2年生1名を対象に計画的に実施している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・相談できる体制、悩みを打ち明けやすい環境を構築できた。 ・SC相談(月2回)が全校に浸透し、生徒・保護者が気軽に相談できており、多様な相談、悩みの解決に大変役立っている。 ・生徒に対する支援の必要性について教員の意識も高まってきている。
オ	地域連携・貢献・協働の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・1部活動1ボランティアの実践100% ・地域防災訓練に参加した生徒90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動によるボランティアの実践100% ・生徒の地域防災訓練への参加率66% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1部活動1ボランティア開始4年目となり、計画から実施の流れが軌道に乗ってきた。各部活動で地域貢献を意識した活動を工夫して実施している。 ・地域防災訓練への周知徹底が不十分だった。防災・災害意識の向上に日頃から取り組める環境を作る工夫をする。
	地域に根ざし開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・HP、SNSによる情報発信 ・広報ポスターに加えて+チラシ作成年間5回以上 ・専門高校合同説明会開催 ・学校行事等の運営に参加した保護者のべ40人以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの毎日更新を継続中、学校公式Instagram フォロワー1,453人 ・ポスター3種、チラシ2種を作成し配布した。 ・10月に9校合同の説明会を開催した。 ・学校行事(マラソン大会、袋商ショップ)の運営に参加した保護者25名 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の様子を多くの方に見ていただく広報活動ができています。新しいHPになっても継続したい。 ・地域の方に認知され、応援される学校を目指し、今まで以上に情報発信をしていきたい。 ・PTA活動のスリム化を目指しているが、主要な学校行事に参加を希望する保護者も少なくない。今後は日程に余裕をもって、アナウンスしていく。
カ	部活動と学校行事の一層の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に積極的に参加している生徒80%以上 ・学校行事に積極的に参加している生徒80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に積極的に参加している生徒86.6% ・学校行事に積極的に参加している生徒95.9% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒は、仲間とのつながりに充実感を覚え、取り組むことの大切さ、取り組みの中で生まれる連帯感、作り上げる達成感を学んでいる。一方で部活動に活動意義を持ってない生徒や転部先で思うように活動できていない生徒、3年生でやめてしまう生徒も増え、クラスや部活動での所属感を高める指導を心掛けたい。

様式第3号

キ	安全と環境に配慮した教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な校内点検と迅速な対応 ・電気・ガス・水道使用量5%削減、ごみ処分量5%削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な点検を実施した。点検で表面化したもの、職員から指摘のあったことに関しては迅速に対応した。 ・電気 1.3%、ガス 36.4%、ごみ処分量 16.8%の削減。水道は漏水が発生したため削減に至らなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教育環境、職員の勤務環境を整えるためにも引き続き定期的な校内点検とそれに基づく対応を実施していく。 ・生徒、保護者向けの配布物のペーパーレス化が進み、必要経費の節約、削減に効果が表れている。光熱費も含め、引き続き経費削減につながる取り組みをしていきたい。
	人権教育の一層の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期のいじめアンケートでいじめの可能性のある回答への聞き取り実施 100% ・いじめが疑われる事案を認知後、対応の遅れ0件 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期のいじめアンケートでいじめの可能性のある回答への聞き取り実施 100% ・いじめが疑われる事案を認知後、対応の遅れ0件 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート記述から1学期に1件、2学期に2件のすべて聞き取りを実施した。3件すべて対応済である。 ・アンケートを、年2回から年3回に増やしたことにより、いじめの早期発見、早期対応が可能となった。
	働き方改革に対する組織的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材活用により教員に負担軽減の実感がある ・やめる、へらす、かえるを活用した業務改善5件以上 ・職員安全衛生委員会やストレスチェック事業を活用した職場環境等の改善 ・時間外在校時間の5%縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の活用により負担軽減の実感がある教員 62.5% ・職員安全衛生委員会は学期中毎月1回の実施をし、職場環境の改善に努めた。 ・ストレスチェックは全教員が実施した。 ・教職員の時間外在校時間(1月まで) 昨年度より 11.5%縮減 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の活用に関しては、活用による教育的効果は実感できているが、活用までの準備に負担を感じるケースがある。 ・職場環境の改善に対する職員の関心は高く、職員安全衛生委員会で提案された課題に対しての取組もできた。ワークライフバランスを意識した働き方を今後も進めていきたい。
ク	学級減への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部1~2部、文化部1~2部の廃止、統合 ・分掌、委員会の縮減、再編 ・開講科目の検討と設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度からの水泳部の募集停止を決定。 ・分掌、委員会の再編に関しては来年度に向け検討中 ・教育課程の見直しと検討をし、教育課程を改定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の統廃合や校務分掌の見直しに関しては、慎重に検討を進めているが、生徒や職員の心情を考えると、思い切った見直しができなかった。 ・教育課程の見直しと検討をし、教育課程を改定した。